

安全の手引き

～備えあれば憂いなし～

2016年4月8日
在スペイン日本国大使館

目 次

I. はじめに

II. 防犯の手引き

1. 基本的心構え
2. 一般治安情勢
3. テロ情勢
4. 邦人被害状況
5. 主要な犯罪と対策
6. 交通事情と自動車運転上の注意
7. 誘拐対策
8. 緊急連絡先
9. 在スペイン日本国公館
10. 緊急時の言葉

III. 緊急事態対処マニュアル：大規模テロ（爆弾テロ）に備えた日本人心得

1. 平素の心得と準備
2. 緊急時の行動

付録：緊急事態に備えてのチェックリスト

I. はじめに

国際化に伴い、海外で暮らす日本人の数は年々増加しており、海外で事件・事故に巻き込まれる事例も増えていることは皆様ご承知のとおりです。

スペインでも毎年 500 件前後の邦人被害が報告されています。しかし、これらはスリや置き引きが大半を占め、日頃の対策による予防も十分可能です。

また、近年スペインで大規模テロは発生していませんが、イスラム過激派組織等の活動は確認されており、今後もテロが発生しないとは言い切れません。

こうした状況下では、強盗や窃盗などの一般犯罪に対する安全対策はさることながら、テロ事件に対する警戒意識を持つことも重要です。本「安全の手引き」をご一読いただき、皆様の安全で快適なスペイン生活の一助となれば幸いです。

II. 防犯の手引き

1. 基本的心構え

(1) 安全のための基本理解

日本人は安全意識が欠如しており、無警戒、無防備、無認識であると指摘されます。海外での安全の基本は、「不断の警戒、目立たない、行動を予知されない」の三原則です。

(2) 安全に関する情報の収集

日頃の安全情報収集には、ニュース、インターネット、大使館、マドリッド日本人会、水曜会(日系進出企業団体)等を通じた情報収集に努めてください。

当館では、安全情報をホームページに掲載している他、メール配信も実施しています。ご希望の方は、氏名及びメールアドレスを領事部(consulado@md.mofa.go.jp)宛にお送りください。

(3) 緊急時の連絡先の把握

緊急時に備え、警察、消防署、病院、大使館、所属先関係者、近隣者等の連絡先を把握すると共に、在留邦人相互間の連絡体制を確立することをお勧めします。

(4) スペインの警察制度

スペイン在住者の安全確保や事件・事故対応の第一義的責任はスペイン政府にあり、捜査・処理は全てスペインの国家主権の下、同政府が実施します。スペインでは、以下4つの警察組織が、それぞれ管轄地域と職務権限を異にしています。

○国家警察(Cuerpo Nacional de Policía)

紺色の制服、紺色のパトカーを使用する、文民の性格を有する警察。県都及び市中心部の治安維持を担当。一般的警察業務の他、身分証及び旅券の発給、外国人の出入国管理、賭博・薬物犯罪等を担当。

○治安警備隊(Guardia Civil)

緑色の制服、白と緑色のパトカーで街頭治安警戒を行う武装警察。郡部、都市間幹線道路、空港、国境及び領海を管轄。一般的警察業務の他、武器・爆発物、密輸及び国税法違反の取締り、輸送警戒、重要施設の警戒、自然環境保護等を担当。

○市警察(Policía Municipal/Policía Local)

地方自治体が、行政区域内の治安維持のため設置する機関。交通警察分野と市民安全対策の他、公共事業機関・建造物の警戒、犯罪多発地域の巡回、行政命令・条例の執行等を担当。

○自治州警察(Policías Autónomas)

自治州(カタルーニャ、ナバラ、バスク、カナリア)が独自に持つ警察。

2. 一般治安情勢

スペインでの2015年一般犯罪件数(スペイン内務省統計)は、2,035,625件(前年比-2.7%減)です。強盗・窃盗事件等は減少傾向にあるものの、依然として高い水準で推移しています。犯罪種別の内訳は以下のとおりです。 ※()内は前年比

殺人：303件(-6.2%)、強盗・脅迫：65,032件(-8.2%)、傷害：215,509件(-1.2%)、窃盗(置き引き・すり等)：714,977件(-1.8%)、窃盗(侵入窃盗)：113,452件(-6.1%)、窃盗(車両窃盗)：39,164件(-9.4%)、薬物犯罪：12,052件(-10.1%)

3. テロ情勢

スペインでは、「イスラム国」等と関係するイスラム過激派組織及び国内テロ組織ETA(バスク祖国と自由)のテロが最大の脅威です。

(1)イスラム過激派組織

2004年マドリード同時多発列車爆破テロ事件以降、イスラム過激派によるテロ事件は確認されていません。しかし、同事件後も、テロ計画が準備段階で摘発されたり、紛争地域向け戦闘員のリクルート・派遣を行ったメンバー等が摘発される等、依然として国内での活動が確認されています。

(2)ETA

ETAは、過去に多くの爆破テロ等を実行してきましたが、2011年に武装活動完全停止宣言をして以降、テロ事件を起こしていません。しかし、ETAは過去に何度も停戦宣言を破棄してテロを実行しています。

4. 邦人被害状況

当館で把握する邦人被害は、80%がスリ・置き引きです。公共交通機関の車内や構内、観光地、ホテル・ロビー、飲食店等で多発しています。その他の発生形態は、時間帯、被害者の年代・性別等による偏りはなく、誰もが常に警戒する必要があります。

首絞め強盗の発生は近年は数件であり、353件発生した2000年と比べ、大幅に減少しています。

◇ 2015年における事件別邦人被害件数(スペイン全土)

スリ：209件、置き引き：178件、ケチャップスリ：25件、ひったくり：8件、車上狙い・パンク盗：30件、首絞め強盗：2件、その他：19件、計：471件

◇ 過去5年の被害件数の推移(括弧内は首絞め強盗)

2015年：471件(2件)

2014年：458件(3件)

2013年：502件(4件)

2012年：494件(2件)

2011年：520件(5件)

5. 主要な犯罪と対策

(1)スリ

公共交通機関、観光地、路上等で、気付かない間に、又はぶつかる、話しかける、小銭を落とす等して注意をそらした上で、鞆等から財布等を抜き取る。

【対策】貴重品は極力持ち歩かない(持ち歩く場合は、一か所にまとめない)。

人が接触してきた際は警戒し、注意を引くこと(通行人が小銭を落とす、突然倒れる等)が発生した際は、荷物等を確認する。

○目隠しスリ

広げた新聞・地図等で、被害者の鞆やポケットを視界から覆い、財布等を盗む。

【対策】人が接触してきた際(道を尋ねられた際等も含む)は、警戒を怠らない。

○ケチャップスリ

ケチャップ等を被害者の衣服に付けた上で汚れを指摘し、注意をそらした上で、鞆や財布等を盗む。汚れを取る手伝いを装って犯行に及ぶ場合もある。

【対策】汚れを指摘されても、荷物等から意識を離さない。

○署名活動を装ったスリ

署名と共に身分証等の提示を求め、財布を出させた上で、現金等を抜き取る。

【対策】先方の要求には、応じる必要性について吟味する。

(2)置き引き

飲食店、ホテル・ロビー、駅、空港等で、気付かない間に、又は話しかける、小銭を落とす等して注意をそらした上で、足下や座席に置かれた鞆等を持ち去る。

【対策】荷物は極力身に着け(特にビュッフェ形式の食事)、足下や座席に置く場合も、常に注意を払う。注意を引くことが発生した際は、荷物等を確認する。

(3)ひったくり

裏通りや物陰で待ち伏せ、通行人の鞆等を奪い取る。バイクでの犯行もある。

【対策】荷物は車道側には持たず、しっかりと身体の前方におく。

(4)首絞め強盗

背後から忍び寄り、首を絞めて気絶させた上で、所持品を盗む。

【対策】人通りの少ない道では、常に周囲に注意を払い、不審者に遭遇した際は、直ちに近くの商店などに避難する。

(5)偽警官

警察を名乗り、警察手帳らしき物を提示した上で、所持品検査と偽って財布を提示させ、現金等を抜き取る(過去の事例は、偽私服警官のみで、偽制服はない)。

【対策】最寄りの警察署等に行き、制服警官の立会いを求める。

<偽警官の主な特徴>

- ・警察手帳らしき偽物の手帳やバッジを一瞬しか見せない。
- ・財布の提示を要求する(※警官は旅券・身分証の提示は求めても、財布の提示を求めることはない)。
- ・スペイン語が流暢ではなく、英語で話してくる場合もある。

なお、高級ブティックが並ぶマドリッド市内のセラノ通りでは詐欺事件対策のため、空港や駅では密入国摘発等のため、私服警官が巡回している。旅行者が私服警官を偽警官と思いこみ、公務執行妨害の容疑で拘束される事案も起きているので、職務質問をされた際は、偽警官か否かを見分けることも重要。

(6) パンク盗

パンクを指摘し停車させ、被害者が確認・修理をする際に、車内の物や車両自体を盗む。

【対策】パンクを指摘されても、直ちに停車せず、安全な場所まで移動する。車外に出る際は、必ずドアをロックする。

6. 交通事情と事故対策

(1) 一般的な交通事情

- ・車の通行：右側通行。
- ・道路事情：舗装は良く整備されている。朝晩の通勤時間・昼食時間帯は渋滞する。
- ・道路標識：日本とほぼ同じ(制限速度もキロ表示)。
- ・運転マナー：一般的に悪い。速度超過、信号無視(特に赤になった際)、無理な車線変更、強引な割り込み、違法駐車、車間距離の欠如等が多く見られる。
- ・歩行者：信号の青色点滅は横断禁止。横断歩道では歩行者優先。
- ・シートベルト：後部座席を含め着用が義務。

<車両運転時の注意事項>

- ・信号機設置は、日本と異なり、交差点の手前に設置されている。
- ・バス専用レーンを横断する場合、バスが優先。
- ・運転中は、携帯電話等の他、ヘッドホン等も使用禁止。
- ・三角停止表示板(2個)、安全ベスト、車両通行許可証、車検証、自動車保険証の常備が義務。

(2) 交通事故について

ア 交通事故の原因

運転技術、道路設備、又は車両による起因が挙げられますが、殆どが交通法規無視や運転技術の未熟によるものです。死亡事故は、速度超過、飲酒運転及びシートベルト未着用が3大原因となっています。

イ 交通事故への対応

人身事故では「警察への通報」「負傷者の病院搬送」「相互の事故保険の確認」が必要です。物損のみの場合、警察への通報は希で、殆どが保険会社を通じ処理されるのが実状のようです。

7. 誘拐対策

近年、外国人を標的とした誘拐事件は確認されていませんが、この種の犯罪はいつ発生するかわかりません。防止策としての心がけは次のとおりです。

- ・日常の行動をパターン化しない。出勤ルート・時間等は変化を持たせる。
- ・日頃から、周辺の様子について、普段と違うかどうか注意する習慣をつける。
(監視・尾行等に敏感に気付くことが重要)
- ・個人情報管理を徹底する。

8. 緊急連絡先

<緊急全般>112(警察・消防・救急の共通番号。必要に応じた部署へ繋がる)

<その他>国家警察:091、市警察:092、治安警察:062、消防:080、救急:061

9. 在スペイン日本国公館

(1) 在スペイン日本国大使館 (Embajada del Japón)

住所 : Calle Serrano, 109, 28006 Madrid

電話 : 91-590-7600 (代表)、91-590-7614 (領事部直通)

○通常期間 窓 口時間(月)～(金) 9:30～13:15、14:45～16:30

電話受付時間(月)～(金) 9:30～13:45、14:45～17:30

○7～8月 窓 口時間(月)～(金) 9:00～14:30

電話受付時間(月)～(金) 9:00～16:00

(2) 在バルセロナ日本国総領事館 (Consulado General del Japón)

住所 : Avda. Diagonal, 640, 2a-D, 08017 Barcelona

電話 : 93-280-3433 (代表)

○通常期間 窓 口時間(月)～(金) 9:00～13:00、15:00～16:00

電話受付時間(月)～(金) 9:00～13:30、15:00～17:30

○夏期期間 (夏期期間は、例年6月23日～8月31日)

窓 口時間(月)～(金) 8:30～13:30

電話受付時間(月)～(金) 8:00～15:00

(3) 在ラスパルマス領事事務所 (Consulado del Japón)

住所 : Calle Santiago Rusinol, 12, 35005 Las Palmas de Gran Canaria

電話 : 928-244012 (代表)

○通常期間 : (月)～(金) 9:00～12:00、14:00～16:00

○7～8月 : (月)～(金) 9:00～15:00

※なお、各館とも上記開館時間以外及び日曜祝日は閉館していますが、日本人に関する人身事故等緊急の場合には対応しています。

10. 緊急時の言葉

「泥棒」 ラドロン (Ladrón)

「助けて」 ソコーロ (Socorro)

「警察」 ポリシア (Policía)

「救急車」 アンブランシア (Ambulancia)

「病気」 エンフェルモ (Enfermo)

「火事だ」 フエゴ (Fuego)

「日本大使館」 インバ・ハーダ・テル・ハポーン (Embajada del Japón)

(当館住所) カジェ・セラーノ・シント・ヌエバ (Calle Serrano 109)

「日本総領事館」 コンストラト・ヘネラル・テル・ハポーン (Consulado General del Japón)

「日本領事事務所」 コンストラト・テル・ハポーン (Consulado del Japón)

Ⅲ. 緊急事態対処マニュアル

1. 平素の心得と準備

緊急事態が「いつ、どこで、どのように」発生するのか予測は困難です。日頃からの準備が非常に大切です。

(1) 情報の収集、現状の把握

常に報道やインターネット等を通じた最新の治安情報入手に努めてください。

外務省海外安全ホームページにおいても以下の情報を入手することができます。

また、外務省では、短波によるNHKのラジオ国際放送『NHK ワールド ラジオ日本』を通じ、現地情勢、退避方法等について情報提供を行うことがありますので、短波放送が受信可能なラジオ(電池使用)を備えておくことをお勧めします。

なお、『NHK ワールド』については、以下のホームページを通じて、最新の情報をご確認ください。

<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/top/index.html>

【海外危険情報】外国で治安が極度に悪化したり、緊急事態発生のおそれが高まった場合、外務省ではその国や地域の治安情勢などを4段階に区分して発出します。危険度により「十分注意してください」「渡航の是非を検討してください」「渡航の延期をお勧めします」「待避を勧告します。渡航は延期してください」に分かれています。

【スポット情報】日本人の安全に関わる重要な事案が生じた場合、あるいは生じる可能性がある場合に速報的に出される情報です。その内容はテロや紛争に関する情報やスト、国際会議開催等渡航・滞在の安全対策やトラブル回避の観点から、知っておく必要があると思われる事案について、個々に情報提供するものです。

【安全対策基礎データ】渡航、滞在に当たって、防犯やトラブル回避の観点から知っておきたい情報、具体的には、治安情勢、犯罪発生状況、多発している一般犯罪の手口や防犯対策、日本人が巻き込まれた事件等が掲載されています。

【テロ概要】テロ組織ごとにテロ事件の発生状況及び日本人・日本権益に対する脅威について掲載されています。

(2) 連絡体制の確保

【在留届の提出励行】緊急事態発生が発生した際、大使館が在留邦人の皆さまの安否確認や事件事故等に遭われた際に支援を行うための連絡は、「在留届」に記載された連絡先を利用し行われます。渡航先で3か月以上滞在予定の方は、在留届の提出を励行して下さい。また、転居、帰国、家族の異動等で届け出事項に変更が生じた場合も、忘れずに変更のご連絡をお願いします。

【家族間、企業内の連絡】家族間、企業内での緊急連絡方法について、予め決めておく必要があります。また、常時お互いに連絡が取れるよう所在を明確にするようにしてください(旅行等で不在となる場合、その旨周知してください)。

【電話回線不通時の備え】予め家族や会社関係者等との合流場所を決めておきましょう。

2. 緊急時の行動

(1) 心構え

緊急事態が発生した、または発生の恐れがある場合、大使館は情報収集、情勢判断および安全対策の策定を行い、随時、情報提供を行います。平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理行動に巻き込まれることのないよう注意し行動して下さい。

(2) 初動

【安否の連絡】先ず安否の連絡が重要です。直ちに家族や会社などに連絡してください。それほど自分には影響がない場合も、本邦家族などへ連絡しましょう。

【安全の確保】危険な場所から直ちに離れ、安全な場所に移動してください。その後は、安全が確認されるまで、不用意に移動しないでください。

【情勢の把握】報道やインターネット等による情報収集を各自心がけて下さい。スペイン政府機関や大使館のほか、日本の外務省からも情報を得られます。緊急時には誤った情報や噂が流れやすくなりますので、落ち着いて正しい現状把握に努めて下さい。

外務省領事局海外邦人安全課	03-3580-3311 (内線) 5139
外務省海外安全相談センター	03-3580-3311 (内線) 2902
外務省海外安全ホームページ	http://www.anzen.mofa.go.jp

(3) 在スペイン日本国大使館への通報等

【情報の共有】重要と思われる情報を独自に得た場合、大使館に通報して下さい。他の在留邦人の役に立つ情報となります。

【被害の報告】自分や家族または他の邦人の生命・身体に被害が及ぶかその恐れがある場合は、迅速かつ具体的にその状況を大使館に報告して下さい。

【相互の協力】緊急事態発生の際には、お互いに助け合うことが必要になります。大使館からも在留邦人の方々に種々の助力をお願いすることもありますので、ご協力をお願いします。

緊急事態に備えてのチェックリスト

- パスポート、身分証明書
パスポートまたは身分証明書は、緊急時では必ず携行すべき重要書類です。
パスポートの残存有効期間は6ヶ月以上であることが望ましく、最終ページの「所持人記載欄」は漏れなく記載し、下段の血液型も記入しておく。
- 現金、クレジットカード、預金通帳、有価証券
- 自動車の整備等
 - 自動車は常時整備しておき、ガソリンはいつも十分入れておく。
 - 車内には、懐中電灯、地図、ティッシュペーパー等を備えておく。
 - 自動車を持たない人は、近くに住む自動車を持つ人と平素から連絡をとり、必要な場合に同乗できるよう相談しておくこと。
- 携行品の準備
避難場所へ移動する事態に備え、上記に加えて次の携行品を直ぐに持ち出せるよう準備しておくこと。
 - 衣類・着替え（長袖、長ズボンが賢明。行動に便利で、華美なものは控え、吸湿性、耐寒・耐暑性に富む素材が望ましい）
 - 履き物（行動に便利で底の厚い頑丈な革靴）
 - 洗面用具（タオル、歯磨き、石鹸等）
 - 非常用食糧等
自宅待機に備え、米、ミネラルウォーター、粉ミルクなどの食糧を備蓄し、自宅から他の場所へ避難する際は、その中からインスタント食品、缶詰類、粉ミルク、飲料水（水筒）を携行すること。
 - 医薬品等（常時服用している薬剤のほか、最低限の救急薬品）
 - ラジオ（NHK 海外放送＝ラジオ・ジャパン、BBC や VOA などの短波放送を受信できる電池仕様のもの）
 - その他
懐中電灯、ライター、ろうそく、ナイフ・フォーク、缶切り、栓抜き、紙・プラスチックの食器、簡単な炊事用具、固形燃料など